

「がん診療連携拠点病院」とは、 どのような役割を担っている のでしょうか？

まず初めに、「がん診療連携拠点病院」とは、全国どこでも質の高いがん医療を提供することができるようになることを目的に、がんの診療・治療に関する専門知識と技術を有し、地域医療を担うことを目的として国が指定した病院です。

Q1 私たちががんになる可能性はどのくらいあるのでしょうか？

現在、日本人が生涯でがんになる確率・がんで死亡する確率はそれぞれ、男性が65・5%と26・2%で女性が51・2%と17・7%になっています(※1)。つまり2人に1人は何らかのがんになり、男性では4人に1人、女性では6人に1人はがんが原因で亡くなっていることとなります。

Q2 国はどのような対策をとっているのでしょうか？

我が国では2006年にがん対策基本法が成立し、予防や診療体制、研究などの重点課題や目標を定める計画が策定されてきました。今回で第4期となる2023年度から6年間の基本計画は、「がんとの共生を柱の一つに掲げ、「誰もががんとともに自分らしく生きられるよう、全ての国民でがんの克服を目指す」ことを目標とし、相談支援や緩和ケアの充実など、患者さんを支える仕組みの強化を盛り込んでいます。

Q3 岐阜県ではがん診療連携につなぐどのような体制をとっているのでしょうか？

法にも積極的に取り組むため、がんの診断・治療などに対して専門的な知識及び技能を有する医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師などが各々の高い専門性を前提に、情報を共有しながら患者さんの状況に的確に対応した医療を提供しています。さらに適切な医療を提供するために、がんゲノム医療を含めた最新の技術を活用しています。がんゲノム医療とは、がん細胞における遺伝子解析を行い、その情報を治療に活用することです。がん細胞の個性や進行の仕方をより詳細に理解し、より個別化された治療法を提供することができ、がん治療の新しい方向性として注目されています。

以上のように、がん診療連携拠点病院は、がん治療の中心的な役割を担い、地域医療において重要な役割を果たしており、当院もがん治療の水準を向上させ、がんになっても患者さんやご家族が安心して生活できるようこれからも総合的ながん診療の提供に努めます。

Q4 岐阜市民病院では、拠点病院としてのどのような取り組みをとっているのでしょうか？

岐阜県内には都道府県がん診療連携拠点病院(岐阜大学医学部附属病院)のほか、岐阜地域・西濃地域・中濃地域・東濃地域・飛騨地域などに7つの地域がん診療連携拠点病院が配置されており、当院は、岐阜地域がん診療連携拠点病院の2医療機関の一つとなっています。岐阜県、岐阜県医師会とともにこれらのがん診療連携拠点病院が連携協力し、がん診療水準の均てん化を図っています。

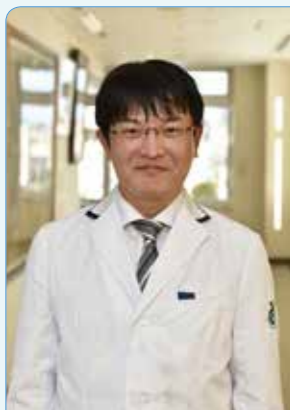
がんになると、「どんな治療が受けられるのか」、「副作用は出るのか」、「仕事は続けられるのか」、患者さんはさまざまな

悩みを抱えます。このような患者さんを支援する仕組み、つまり『全体的がん患者さんがいつでもどこでも適切な医療や支援を受けられる』体制が重要です。当院では、がん治療に必要な診療科の充実度、治療成績、医師の専門性、医療機器の整備状況、がん情報連携体制などの他、看護師やソーシャルワーカーらが対応する「がん相談支援センター」を整備しており、相談内容については、患者さんの療養生活や就労に関する問題までがんに関することであれば制約はなく、他の医療機関で治療中の患者さんやご家族も利用できます。また、医療・療養に関連する制度の面からの支援が不足している15歳から30歳代までの「AYA(Aヤ)世代」のがんに関するAYAサポートチームをつくり、一人ひとりの患者さんに適した治療環境を整えられるように心がけています。

Q5 最新のがん治療について、どのような取り組みをしているのでしょうか？

がん免疫療法など新しい治療

(※1)がん情報サービス「最新がん統計2019年データに基づく」



今月の先生 岐阜市民病院 血液内科 笠原 千嗣

○役職

副院長
先端医療支援局長
がん診療局長
血液内科部長

○主な資格、認定

日本血液学会指導医・専門医・評議員
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医・専門医
日本内科学会内科指導医・認定内科医・総合内科専門医
日本輸血・細胞治療学会認定医

○卒業年、主な職歴

日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医・評議員
日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医
日本輸血・細胞治療学会細胞治療認定管理師
平成8年岐阜大学医学部卒
岐阜薬科大学健康医療薬学研究室特任教授